第53回東北地区公立学校事務長会研究協議会並びに総会　報告

令和5年6月22日(木)～23日(金)　　会場:仙台ガーデンパレス

第５３回東北地区公立学校事務長会研究協議会並びに総会（以下「東北事務長会」という）は、６月２２日（木）から２３日（金）までの２日間、仙台市宮城野区にある仙台ガーデンパレスを会場に、本県が当番県として開催いたしました。

昨年度から常任理事や調査研究部を中心に準備を進めてきましたが、令和２年度以降はコロナ禍で東北事務長会も中止や書面開催を強いられたため、近年の例を参考にすることができずに苦労いたしました。また、コロナ禍の終息が見通せない中での開催方法の判断は難しいものがありました。結果的には、感染症法上の５類移行や社会情勢の変化を踏まえて、県理事会や各県会長と協議し、感染対策を十分行いながら対面開催といたしました。

東北事務長会当日は、休会中の岩手県を除く５県から８９名のお申し込みをいただき、１日目の総会・講演会には８０名、２日目の研究協議会には８３名の参加をいただきました。また、総会には、宮城県教育委員会教育長 佐藤靖彦 様、宮城県高等学校長協会会長 高橋 賢 様、全国公立学校事務長会副会長 片野良教 様を来賓にお迎えし、盛会裏に終えることができました。

1　日　程

一日目	11:00	13:00	14:30	16:05	17:30	二日目	9:00	12:00
	各県代表者会議	開会式・総会・諸連絡	講演	本部報告	懇談会		研究協議会	閉会式

2　開会式

齋藤会長あいさつ

佐々木副教育長祝辞

3　総　会

⑴ 報告第１号　令和４年度会務報告

⑵ 報告第２号　令和４年度会計決算報告

⑶ 監査報告

※　事務局から一括して報告があり、質疑や異議はなく拍手で承認。

⑷ 議案第１号　役員改選（案）

→　異議なく拍手で承認。

⑸ 議案第２号　令和５年度事業計画（案）

⑹ 議案第３号　令和５年度予算（案）

※　事務局から一括して説明。

※　予備費の使途に関して質問があり、分担金の額や予備費の執行等について、各県会長と今年度中に検討していくことを確認。拍手で承認。

4　講　演

演題：「伝わる言葉。失敗から学んだ言葉たち」

講師：仙台育英学園高等学校

硬式野球部監督　須江　航　氏

「人生は敗者復活戦」

今年の夏の甲子園決勝戦の後に須江監督がインタビューで語った言葉。ネット上では多くの共感や感動、賛辞の声が寄せられました。この言葉は、講演会の中でもおっしゃっていました。

ご本人談では、高校、大学と選手としては勝ち組になれず、学生コーチを務めた経験からの座右の銘とのことです。

ご本人のおっしゃるとおり、選手としては実績を残せなかったのかもしれませんが、唯一、中高両方の全国大会優勝監督となった須江監督の言葉一つ一つが、私たちの琴線に触れ、事務室を運営する上での参考になったのではないでしょうか。

○　監督就任から日本一までの軌跡　物事を達成するときは「クオリティーリミット」と「タイムリミット」の２軸を掲げる

・　２０１８年の甲子園初采配は初戦０－９で大敗

→　試合後、１０００日で日本一になると宣言。

・　翌年、準々決勝で星陵高に１－１７で敗戦

→　試合後、現在地と日本一への距離感が分かった。近い将来、面白い野球（適材適所、多くの選手に出場機会、プレーや采配に根拠がある）で日本一になることが描けたと公言。

・　２０２２年夏の甲子園制覇（コロナで開催されなかった１年を除くと約１２００日後）

○　育てたい人物像は、情熱（知恵と工夫）と素直さ、違いを面白いと思える柔軟さ

○　肯定的な指示は否定的な指示を凌駕する

○　「青春は密」

元々はコロナ禍の指導に思うところがあっての言葉

高校生の気持ちを想像、優しさは想像力

○　挫折への向き合い方　角度が１度じゃ変わらない、でもチョットは変わる、その積み重ね

○　情報が溢れている現代では、成果が見通せない努力は続けさせられない　具体的な説明力が問われる

○　「怒る」も「叱る」も今の子には同じこと

成功するようにではなく、失敗しない行動をするようになる　叱る前に予測して指導することが大事

○　「伝わる言葉」は「相手が聞きたい言葉」

伝えたいことを聞きたい言葉にどう変換できるか

だから相手の話を聞くしかない

5　研究協議会

研究協議会では、情報交換題を提出した県から趣旨説明を行った後に各県の状況を補足説明、質疑応答の形式で進められました。

用意された 13 題のうち、時間の関係で９題までとなりましたが、施設や物品の管理、授業料や部活動関係の事務処理、退職校長の叙勲など、多岐にわたり活発な意見交換が行われました。特に、No.９事務職員の配置状況については、40 分以上をかけて情報交換を行いました。各県事務室長の年齢構成や採用区分・経歴の違いなどで一概に比較できないところもありましたが、現状や違いを知り、これから事務室長になる人材の育成や資質向上を考える上で参考になったのではないでしょうか。

No.	題　目	提案県
1	国公立高校生等奨学のための給付金の代理受領	青森
2	部活動等で使用するマイクロバスの取扱い	秋田
3	新型コロナウィルス感染症対策で整備した物品	山形
4	高校事務の集中処理（共同執行）	福島
5	保護者負担の在り方　～部活動関連経費など～	宮城
6	退職校長に係る叙勲等の準備態勢	青森
7	校舎の開錠・施錠方法	青森
8	学校統廃合に伴う物品の処分等	青森
9	事務職員の配置状況	青森
10	服務及び旅費等の電子化	秋田
11	学校徴収金等の会計処理時に金融機関に支払う各種手数料の負担軽減及びインターネットバンキングの利用	山形
12	学校における自動販売機の設置根拠、収入の取扱い	福島
13	R4情報交換題の深掘り	宮城

上：研究協議会　各県代表

下：宮城県　調査研究部員

最後になりましたが、準備と運営にあたられた役員、理事及び各部員の皆様、総会議長をお引き受けいただいた岩ヶ崎高校の小野寺副参事兼事務室長様、会を盛り上げていただいたご参加の皆様全員に感謝を申し上げます。